

東京都市大学/早稲田大学 大学院共同原子力専攻主催
原子力安全工学科・都市工学科共催

第8回未来エネルギーシンポジウム

－ 巨大地震に備えるリスク評価・耐震技術 －

2011年3月11日、東北地方三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震により発生した大津波が東北地方から関東地方の太平洋沿岸に甚大な被害をもたらしました。今回の地震により、世界有数の地震地帯にある我が国では、原子力施設や重要な施設においては地震や津波などに対する安全性確保が最重要課題であることが再確認されました。重要な施設の安全性を確保するためには、今後予想される様々な自然の脅威に対するリスクを評価することにより重大事故を防ぐ対策や万一の防災対策を立案することが非常に有効です。今回のシンポジウムは、原子力発電所を含めた建物や土木構築物へのリスク評価についての基本的な考え方や評価技術の現状と今後の展開について、各分野におけるリスク評価の第一人者の方々に解説いただき、重要施設や社会インフラ設備・構築物の今後の耐震安全確保のあり方について、皆様と共に考えることを願って企画しました。地震や津波など自然災害に対する安全確保に関心のある方々にご参加いただければ幸いです。

記

開催日時：2013年11月25日（月） 13時15分～19時 （受付開始 12時45分）

開催場所：渋谷エクセルホテル東急 プラネッツ ルーム（6階）

1. プログラム：

（以下、敬称略）

- | | | |
|-------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| 13:15-13:20 | 開催挨拶 | 東京都市大学学長 北澤宏一 |
| 13:20-13:50 | 原子力施設のリスク評価の社会的ニーズとリスク・耐震工学コースの設立 | (独)原子力安全基盤機構 技術顧問 平野光将 |
| 13:50-14:30 | 原子力施設のリスク評価の方法と東京都市大学における最近の研究 | 東京都市大学大学院共同原子力専攻 特任教授 村松健 |
| 14:30-15:10 | 地震・津波に対する原子力施設のリスク評価と地域防災の実践 | (独)原子力安全基盤機構 理事、東京都市大学客員教授 蛭澤勝三 |
| 15:10-15:20 | 休憩 | |
| 15:20-16:00 | 建築分野におけるリスク評価の意義 | 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 教授 高田毅士 |
| 16:00-16:40 | 社会基盤施設の耐震技術の原点：性能照査型耐震設計と地震リスク評価 | 東京都市大学工学部都市工学科 教授 吉川弘道 |
| 16:40-17:00 | 総括（含む総合討論・質疑応答） | 東京都市大学大学院共同原子力専攻 教授 藤本滋 |

2. 定員 : 150名

3. 参加費 : 無料

4. 参加申し込みについて

(1) 申し込み内容および申し込み先

①氏名、②所属、③役職、④連絡先メールアドレス、⑤連絡先電話番号を下記メールアドレスまたはFax までお申し込み下さい。

Email : nse_adm@tcu.ac.jp

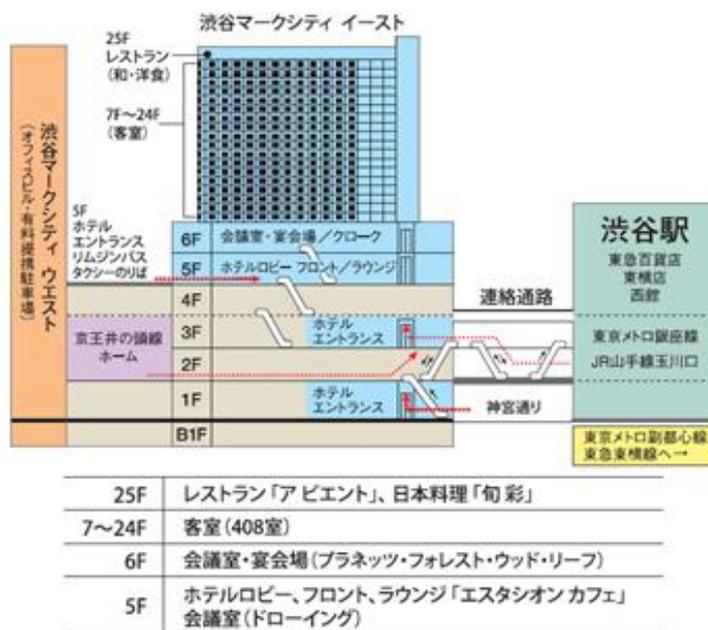
Fax : 03-3704-7675

(2) 申し込み締め切り期日 : 11月18日(月)

(3) 問い合わせ : 原子力安全工学科 藤本 滋 Tel. : 03-5707-0104, Email : nse_adm@tcu.ac.jp

5. アクセス

- ・ 渋谷エクセルホテル東急
- ・ 住所 : 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-12-2 Tel : 03-5457-0109 / Fax : 03-5457-0309
- ・ <http://www.shibuya-e.tokyuhotels.co.jp/ja/>



以上